

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 1	理念・目的
------	-------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
<p>0101(2)(3) 研究科(専攻)の教育研究上の目的および育成する人間像は、大学ホームページ教育研究上の目的[0101a]、研究科ホームページ[0101b]、大学案内[0101c]、学生便覧[0101d]等に明確に記載している。</p> <p>0101(4) 大学の基本理念・使命[0101e]に基づき、研究科の教育研究上の目的を策定している。</p> <p>0102(1) 研究科の目的や育成する人間像はホームページ[0101a, b]と学生便覧[0101d]などで明示・周知・公表しており、記述を統一しているが、さらなる確認が必要である。</p> <p>0102(2) ホームページ[0101a, b]ならびに学生便覧[0101d]等を利用し、構成員への周知を果たしているが、教職員以外のステークホルダーの認知度は不明である。</p>	

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0101	特記事項なし
項目 No. 0102	特記事項なし
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0102	研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像について公開・明示されている資料の内容を再確認するように、構成員に再周知するとともに全ステークホルダーに認知してもらう必要がある。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0102	研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像について、教職員への周知を図っている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0101	研究科（専攻）の目的や人間像の記述を、大学の基本理念・使命・教育目的との関連性を感じさせる記述になっているかを再確認する。
0102	研究科（専攻）の教育研究上の目的や人間像について公開・明示されている資料の内容を再確認するように、教授会ならびに学生対象のPSH等の場で構成員に再周知する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	中部大学ホームページ 研究教育上の目的 生命健康科学研究科 ( <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_life_health/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_life_health/</a> )	○
0101	b	中部大学ホームページ「生命健康科学研究科」 ( <a href="https://www3.chubu.ac.jp/academics/graduate/life_health/">https://www3.chubu.ac.jp/academics/graduate/life_health/</a> )	○
0101	c	中部大学大学案内2021 p.120-143	○
0101	d	中部大学大学院学生便覧「生命健康科学研究科」p.④-⑤	○
0101	e	大学の基本理念・使命・目的 ( <a href="http://www2.chubu.ac.jp/about/philosophy/">http://www2.chubu.ac.jp/about/philosophy/</a> )	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 2	内部質保証
------	-------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。		
0203	大学による自己点検・評価の詳細点検（2017～2018 年度）をピアレビュー受審も含めて、2019 年度に実施した[0203a]。また、2020 年度も大学による自己点検・評価を実施した[0203b]。大学において大学基準協会による認証評価を受審した [0203c]。しかし、本研究科独自の外部評価は受けていない。		
長所・特色	<< 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの		
項目 No. 0203	特記事項なし		
項目 No.			
課題事項	<< 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点		
項目 No. 0203	自己点検・評価のピアレビューに基づく本研究科の活動改善と改善のための体制づくりと PDCA サイクルの運用。		
項目 No.			

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない		
0203	大学による自己点検・評価の詳細点検受審(2019 年度) [0203a]、年度点検（2020 年度） [0203b]と大学基準協会の認証評価受審[0203c]		

--

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0203	自己点検・評価のピアレビューに基づく本研究科の活動改善と改善のための体制づくりと PDCA サイクルの運用。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	2019 年度研究科自己点検・評価シート	○
0203	b	2020 年度研究科自己点検・評価シート	○
0203	c	2020 年度大学基準協会認証評価	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料    △ : 現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

**基準 4 教育課程・学習成果（1）**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4) 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	A
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7) 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401	生命医科学専攻博士後期課程については2018年度まで3つのポリシーが公表されていなかったが、2019年度に教務委員会等に諮り公表した[0401a]。
0402(1)～(4)	本研究科の院生は多くが医療系であるため、進学を目的を大別すると、1)いわゆる研究者としての能力を高めようとする者と、2)すでに医療専門職として働き専門職業人としてスキルアップを目指している者が混在している。そのため、基礎と実践のいずれにおいても調査・研究活動が推進できるようなCP・DPを定め、公表している[0402a][0402b]。
0403(1)～(7)	専攻間で授業編成などの情報を共有することにより、教育が円滑に進む体制を作り上げ、研究科委員会で大学院教育について議題が提案され、審議決定している。研究科委員会の議を経た事項は、各専攻会議にて検証され、自己点検を行っている[0403a][0403b]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0401	中間発表会で院生の研究進捗状況を専攻内で確認している。
項目 No. 0403	社会人院生に対する夜間開講や休日等を利用した柔軟な教育体制を組んでいる[0403c]
項目 No. 0403	社会人という立場を活かした職場を研究フィールドとした調査・研究指導を行っている[0403d]
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0402	各専攻会議の開催について研究科として把握できておらず、また、専攻間の連携も弱い状態が依然として継続している。
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 * 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0401	生命医科学専攻博士後期課程の3つのポリシーを2019年度に公表した[0401a]。
0402	各専攻の専攻会議を定期的に行い問題点の検証、共有化を図っている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0402	専攻会議を定期的実施するとともに、専攻間の情報交流を促進し、問題点の検証、共有化を図る。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0401	a	生命健康科学研究科生命医科学専攻 3つのポリシー	○
0402	a	学生便覧（大学院 2020 年度）生命健康科学研究科の DP・CP (p. ④-⑤)	○
0402	b	学生便覧（大学院 2020 年度）生命健康科学研究科のカリキュラム表 (p. 67-81)	○
0403	a	生命健康科学研究科 研究科委員会 議事録	○
0403	b	生命健康科学研究科 専攻別 会議 議事録	△
0403	c	生命健康科学研究科 時間割表	△
0403	d	修士論文題目 (RH)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織 生命健康科学研究科

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	B
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	A

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	A
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
<p>0404(1) 年間または学期の履修単位数の上限は規定していないが[0404a]、院生には指導教員のもとでの研究時間を十分に確保するように専攻主任よりオリエンテーションで指導している。また、履修にあたっては指導教員からも具体的な助言を行い、適切な履修単位数の取得が行われている。上限は規定されていないが単位の実質化が完全に図られている。</p> <p>0404(2) シラバスは全学の書式に則り作成し、それぞれの科目について授業内容の整合性について専攻内で第三者点検を行っている[0404b]。</p> <p>0404(3) 授業形態・内容・方法は、教員に任されているため多種多様であるが、課題を与えこれに対する提出物を個々に指導するなど院生の主体的参加を高める工夫がされている。ただし、学部講義に比して自由度は高く、また講義あたりの院生数が少ないことからさらなる改善も必要である。</p> <p>0404(4) 春学期、秋学期前のオリエンテーションでは年間スケジュールの確認を行っている。計画に基づく研究指導は各指導教員の責任で実施しており専攻内で統一が必ずしも十分ではない。</p> <p>0405(1) 達成目標・成績評価はシラバスに明確に記載し、各教員はこれを厳守している[0404b]。</p> <p>0405(3) 多くの講義・実習科目においては成績の評価基準を厳格に設けている[0404b]。</p> <p>0405(4) 学則に従い修了のための必要単位数を厳格に設けている[0404a]。</p> <p>0405(5) 前期課程院生（修士）は修士論文および修了研究発表を課して審査する[0404a]。後期課程院生（博士）の博士論文については、博士論文提出のための明確な基準を内規および申し合わせ事項として規定している[0405a, 0405b]。</p> <p>0405(6) 修士においては、各院生の主査、副査が審査を行った後、修士論文審査報告書を作成し、これを毎年2月に開催される研究科委員会の審議により修了認定を行い、客観性、厳格性を確保している[0405c]。博士においては、生命医科学専攻研究科委員会内規に従い選出された主査、副査が、公聴会を開き試験を実施するとともに、学位請求論文を審査し研究科長に報告した後に、学則に基づき研究科委員会で合否投票を行い、修了認定の客観性、厳格性を確保している[0405d]。</p> <p>0405(7) 修士、博士とも、修了の判定は毎年2月の研究科委員会で認定するという責任体制を取っている[0405a]。</p> <p>0405(8) 修士、博士とも、研究科委員会で認定のもとに適切かつ厳格に学位を授与している[0405a]。</p>	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404～	特記事項なし
0405	
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	

項目 No. 0404	講義方法に関しては教員に一任されているため、講義によって、院生の自主的参加度に差が生じる。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0405	成績評価、単位認定および学位授与については、決められた手続きにしたがって進めている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0405	さらに院生が主体的に参加できるような講義方法を教員間で共有できる方策を継続して整備する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	2020年度研究科学生便覧(各専攻の項)	○
0404	b	科目シラバス(各専攻の項)	△
0405	a	課程博士学位請求論文の申請・受理に関する内規	△
0405	b	課程博士学位請求論文の申請・受理に関する申し合わせ事項	△
0405	c	生命健康科学研究科委員会規程	△
0405	d	生命健康科学研究科委員会議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	B
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	C
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ループリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	C
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406(1)～(3) 院生の学習成果に関しては、各専攻に任されているところが大きく、研究科全体として完全に把握しているわけではない。専攻ごとの専攻委員会（専攻会議または学部、研究科にわたる検討を学科会議で審議することもある）等で審議がされ、内部での情報共有、学生の評価、対応等がなされている[0406a]。	
0407(1)～(2) 原則毎月1回の研究科委員会を開催し、その中で教育課程が滞りなく進んでいるかを点検・評価している[0407a]。また不定期ではあるが、各専攻で委員会（あるいは学部とともに学科会議）にて、専攻固有の研究教	

育の点検を実施している[0406a]。その他学部 FD 委員会と共同で FD 研修会を行い、情報を共有し授業を顧み、次学期への改善に繋げている[0407b]。さらに院生には修了年次前は年 1 回の中間発表を、修了年次には大学院研究発表会での発表を課して、これに研究科教員の多くが参加し、研究教育の成果を検証している[0407c]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0407	基礎バイオ研究から臨床研究まで広範な医学医療に関する教育課程を有している。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0406	大学院生の学習成果の評価判定をするための指標の有無、ならびにあるとすれば指標の検討。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0407	研究科内で行われる授業については、2019 年度から授業後アンケートを採ることにした。その結果を見て、授業内容の改善を図っていく。また、中間発表会などにおいて、院生指導に指導教員に加え他教員の意見を採り入れ、より有効な指導を行っている。とくに研究の方向性についてより広く他分野からのアドバイスを与えることができるようになっている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0407	授業後アンケートの結果を分析し、授業内容の改善に結びつける。
0407	各専攻委員会を定期的に行い、大学院教育・研究に資するよう努める。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0406	a	各専攻委員会議事録、各学科会議議事録	△
0407	a	研究科委員会議事録	○
0407	b	FD委員会活動報告書	○
0407	c	大学院研究発表プログラム	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針 (CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・ 入学定員に対する入学者数比率 ・ 編入学定員に対する編入学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率	B
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・ 学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	A
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	A

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0501(1)～(4) 中部大学ホームページ[0501a]、学生便覧[0501b]等に3つのポリシーを公開し、毎年、各専攻において記載事項の齟齬がないかを確認している。入試要項にも3つのポリシーについてホームページを参照するようにと記載があるため齟齬は生じていない。毎年、各専攻において、これらの記載事項の確認をしている。入学希望者に求める水準について、入試前に志望する研究指導教授との相談が必須であることを入試要項に明示している [0501c]。 0502(1)～(4) 入学者選抜については、入試ごとに各専攻のルールにしたがって入試委員を選抜し、研究科長と専攻主任が採点状況を把握し、公正な入学者選抜と運営体制の整備に努めている[0502a] [0502b]。 0503(1) 生命医科学専攻の後期課程はトータルとして定員を充足している。しかし、2020年度は入学がなく、コンスタントな入学を図っていくことが必要である。博士前期課程や修士課程の入学数は、全専攻で、年度による差がある。とくに看護学専攻、リハビリテーション学専攻については専門領域の特殊性から社会人学生が大多数を占め、年度による差が大きい [0503a]。 0504(1)～(2) 研究科としてのAPはホームページ上に公開している [0501a]。入学生の受入れ状況に関する検証は研究科委員会で適宜行う必要がある。入学者選抜については各専攻においてAPに従い、学力、人間性、研究の方向性を中心に公正かつ適切に入学試験を実施している。専攻の特殊性もあり、定員充足に関する課題は、各専攻および研究科委員会において必要に応じ検討している[0504a]。	
長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0501	生命医科学、看護学、リハビリテーション学、保健医療学と幅広い医療関連分野の専門教員で構成されているため、入学した院生に対して学際的な研究指導、教育指導が可能。
項目 No. 0501	リサーチクエストが決まっているので研究内容・方法を絞りやすく、学生受け入れの時点から論文完成までの効率がよい。
課題事項 <<箇条書き>> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0503	内部進学率の向上(とくに生命医科学、保健医療学専攻)が必要。
項目 No. 0503	看護学専攻、リハビリテーション学専攻における社会人入学生の確保

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0503	学部3年生の早い時点で卒研指導教員を決定し、個別指導をより強化して学部学生の研究心を早期に活性化させて、学部学生の博士前期課程への進学希望者の増加を図り、より多くのAPに沿った人材の受け入れを図る。 APに沿った社会人院生に対しては授業時間等に配慮して進学しやすい環境を整える
0504	生命健康科学研究所との協働により、大学院生獲得につながる研修を企画・運営していく[0504b]。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0503	学部学生の研究心を早期に活性化し大学院進学率の増加を目指す。
0503	社会人大学院生を増やすためにより進学しやすい環境を整える。
0504	潜在性研究能力を入学試験により予見できるかどうかを入学後の院生の研究の進捗状況をみてパースペクティブに入試の在り方を考えていく。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	中部大学ホームページ 生命健康科学研究科各専攻の3つのポリシー	○
0501	b	2020年度研究科学生便覧	○
0501	c	2020年度中部大学大学院入試要項	○
0502	a	2019年度2月試験結果	△
0502	b	大学院入試委員選出ルール (RK)	△
0503	a	2020年度中部大学大学院在籍者数 ( <a href="https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-02.pdf#page=1">https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/1-02.pdf#page=1</a> )	○
0504	a	2019年度, 2020年度研究科委員会議事録	○
0504	b	中部大学生命健康科学研究所セミナー案内 (2020)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	A
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	—
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	A
		(2) 教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0602(1)～(2) 現在、全専攻において研究指導可能な教員組織は整っている[0602a]。教員組織編制については、授業科目専任教員は確保されており、年齢的には若齢の教員が少ない傾向にあるが、私立大学としては妥当なものであり、性比でみると女性教員(研究指導教員)が全教員の約4分の1を占める[0602b]。	
0603(1)～(2) 教員採用については全学の「中部大学における教員人事の進め方」(2015年4月)のルールに従っている[0603a]。研究科教員の昇格基準は兼任する学部内の各学科の昇格基準に従っている[0603b]。それに従い学科教授組織で昇格の是非を審議し、学部長に上げ、さらに学部執行部(学部長、副学部長、補佐)で審議後に、人事担当理事を通し大学執行部に上申している。また、各学科において学位・業績・職位の整った者から研究科における指導資格(○合、合)について研究科委員会に諮り、その適否を決定している。	
0604(1)～(2) 全教員が学部と兼務しているため、学部開催のFD研修会(卒業研究のルーブリック評価等)に多くの教員が参加している[0604a]。加えて、生命健康科学研究所との主催で外部研究者を呼び講演会を開き、教員、院生のモチベーションを向上する機会を増やしている[0604b]。年度ごとのFD活動推進計画を立てている[0604c]。	
0605(1)～(2) 年1回、全学で個々の教員の自己点検・評価を行っている[0605a]。教育研究活動の実施状況をみると、教員間で活動の差異があり、教育研究活動の活性化が必要である[0605a]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0604	学部のFD活動に加え、専攻別に講演会や情報交換会を開催している。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	
項目 No. 0605	各教員間により教育・研究の活動に差が見られる点。

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0604 学部とともにFD活動を推進し、その研修内容は大学院教育にも影響を及ぼしている。また、生命健康科学研究所主催の講演会に研究科も協力し、種々の企画を開催した。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
0603	迅速な採用人事ができる体制整備。
0605	研究科委員会を通じて、個々の教員の教育・研究活動の活発化を促す。

## 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	文科省大学院設置基準	○

0602	b	2020年度大学教員数	○
0603	a	教員人事の進め方	○
0603	b	各学科昇格・昇任判定基準	○
0604	a	2020年度FD委員会自己点検・評価報告書	○
0604	b	2020年度生命健康科学研究所セミナー案内	○
0604	c	2020年度FD活動推進計画書	○
0605	a	2019年度 教員活動重点目標・自己評価シート（個人情報を含む）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 7	学生支援
------	------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・正課外教育</li> <li>・留学生等の多様な学生に対する修学支援</li> <li>・障がいのある学生に対する修学支援</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・留年者および休学者の状況把握と対応</li> <li>・退学希望者の状況把握と対応</li> </ul>	A
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談に応じる体制の整備</li> <li>・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動</li> <li>・心身の健康維持・増進および安全への取り組み</li> <li>・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援</li> </ul>	A
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備</li> <li>・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施</li> <li>・キャリア支援講座などの実施</li> </ul>	A
		(6) インターンシップは十分に実施していますか。	—
		(8) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0702(2)(4) 生命健康科学研究科では大学院生に対して、専攻主任および主指導教員に加えて副指導教員を2名配置し、院生の修学および生活に対して支援の体制をとっている[0702a]。	
0702(4) 学生が個々に抱える問題については、主・副指導教員および専攻主任がまずはプライバシーを考慮しつつ対応し、必要に応じて専攻内で情報共有をはかりつつ対策を検討している [0702b]。	
0702(5) 生命医科学専攻や保健医療学専攻では生命医科学科内の就職委員会が同時に院生のキャリア支援も担当し学部生向けのキャリア支援講座、企業説明会等の情報を院生とも共有する。さらに専攻主任と主指導教員を介して個々の院生の支援を行っている。看護学専攻、リハビリ専攻では大部分の院生は社会人でありキャリア支援を要することが少ない。	
0702(6) 院生は学部生の夏休み期間も研究に従事するためインターンシップは実施していない。	
0702(8) 生命健康科学研究科の教員は学科の教員を兼ねるため、学科を対象としたキャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の役割教員が中心となって、生命健康科学研究科の専攻ごとに学生支援を実施している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	指導体制が主指導教員と副指導教員の複数体制をとっており懇切丁寧な指導ができる。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	キャリア支援に対する対応の不足。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702	2018年度以降に実施されたハラスメント研修会などの成果が出てきている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
0702	キャリア支援のための取り組みの強化
0702	引き続きハラスメント対策(研修会等)の実施

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.	根拠資料の名称		提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	2019年度、2020年度指導教授名簿	△
0702	b	各専攻委員会議事録	△

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料 △:現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

**基準 8 教育研究等環境**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0806 (1), (2) 例年、大学に提出する重点計画表[0806a]で新規購入機器・更新機器に必要度に応じ優先順位をつけ、検証・自己点検を行っている。学長ヒアリングにおいて年度重点目標を設定し、予算等の要求をしている。	
長所・特色 <箇条書き>	*先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 0802	一部ではあるが教育・研究上の最新機器を設置している[0802a]。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き>	*改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 0802	教育・研究機器の新規導入や更新が必要。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0806 重点計画表[0806a]に基づき、新規購入機器・更新機器の予算付けについて学長ヒアリングで、あるいは管財部との交渉を行っている。2019 年度に更新機器整備のための大型予算が得られた。応用生物学研究科との共通機器として最新機器の導入を図ることができるように連携をとることが必要であるとともに、外部大型研究資金獲得による最新機器導入を図るために、研究科内での共同研究体制を充実させてより高いレベルでの研究を目指す。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	各学科における保有機器	△
0806	a	2019年度, 2020年度提出 重点計画表 (学部の資料を同封して下さい)	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料    △ : 現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

**基準 9 社会連携・社会貢献**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	B
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。		
0902(2)	社会連携・社会貢献について、研究科として目標設定など意図した活動は行っていない。しかし、医療系かつ有資格者の大学生が多数を占める研究科のため、院生が取り組む研究において、企業との共同開発を図ったり、保健・医療・福祉の現場の実態把握や介入が行われたりするなど、社会連携・社会貢献につながる教育研究活動が行われている [0902a]。また、生命健康科学研究所と協働し、医療系有資格者や地域住民に向けた研修会を開催しており [0902b]、保健・医療・福祉施設や団体からの研修会講師依頼、研究指導依頼等に各教員が自主的に応じている [0902c]。		
0902(3)	国際交流事業は各教員レベルに留まり、残念ながら、いまだ不足している部分が多い。		
長所・特色	《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの		
項目 No. 0902	医療・保健・予防・健康事業・介護事業等の領域で各教員が社会貢献、地域交流の実績を上げている [0902c]。		
項目 No.			
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点		
項目 No. 0902	多くの教員が社会貢献・交流に努力しているものの、まだ努力不足がある。		
項目 No. 0903	国際交流に向けた努力が一部教員に留まっている。		

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0902 COC 事業などを通じて、本研究科の教員は社会連携・貢献を実施している。一方、国際交流については、個別教員に任されており、研究科全体としての活動は進展していない。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0902	教員の特別海外研修制度の活用や短期海外出張、国際学会参加などを通して、海外研究者との交流を活性化する。
0902	個々の教員の国際交流力を上げ、海外の大学との部門間協定を構築する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	2019年度 教員活動重点目標・自己評価シート (個人情報を含む)	△
0902	b	中部大学生命健康科学研究所セミナー案内	○
0902	c	各教員の持つ社会貢献に関する事業・研究の資料(資料が膨大量のため現部署で保管)	△

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料 △:現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 生命健康科学研究科の教員は学部との兼任であるため、生命健康科学研究科独自の委員会はほとんどない。研究科における各種検討事項は学部の各種委員会において委員長の主導のもと定期的に招集・開催・検討しており、組織の運営は適切に執行されている。委員会の議事録は必ず作成され、可及的に研究科長/学部長が確認している [1120a]。生命健康科学研究科委員会は月 1 回開催され、議事録が作成され、研究科長が決済を行っている [1120b]。生命医科学専攻では所属教員が生命健康科学部の全学科に分散しているため、生命健康科学研究科委員会を生命医科学専攻独自の委員会に替えており、適宜メール審議で業務を実施している。一方、他の専攻においては独自に専攻会議を持ち、大学院生の学習環境整備、入試業務の確認・入学希望者の確認、研究進捗状況把握と発表会の計画・運営、予算管理、修士論文提出に至る手続きのマニュアル化などを行い、毎年業務の見直しを行うとともに、議事録も適切に作成されている [1120c]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	執行部会議（研究科長、専攻主任で構成）を適宜実施し、研究科の重要課題を抽出し研究科委員会で事案の共有化を図っている。 [1120b]
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	専攻内ごとの委員会が定期的に行われていない。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
--

1120 生命健康科学研究科委員会や各種委員会が開催された場合は、議事録の作成・保存が、事務系職員との連携のもとでなされている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	各専攻内で定期的な専攻委員会を開催し、研究科委員会にて情報の共有化を図る。また、各専攻会議の議事録の保管を確実にする。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	各委員会議事録	△
1120	b	研究科委員会議事録	○
1120	c	各専攻会議録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管